

2021年上半期の日本の貿易動向と 今後の国際経済／貿易動向の注目点

一般社団法人日本貿易会 貿易動向調査委員会委員長
豊田通商株式会社 渉外部 調査室 室長

なみさと ゆうじ
並里 裕司



世界経済と貿易の潮流の大きな変化がコロナ禍で加速している。米中対立激化等による国際政治経済の構造変化や、グローバルサプライチェーンの最適化、バイデン政権誕生等による世界的な気候変動対応の進展および新型コロナウイルス危機の長期化などにより、2021年の世界経済は多様な課題に直面している。特に長期化する新型コロナウイルス感染症の影響は甚大で、上半期は昨年同様、世界各地で経済活動が強く制限され、貿易にも大きな影響が生じた。以下に2021年上半期の日本の貿易動向を振り返り、今後の国際経済や貿易動向の注目点について検討する。

2021年上半期の日本の貿易動向

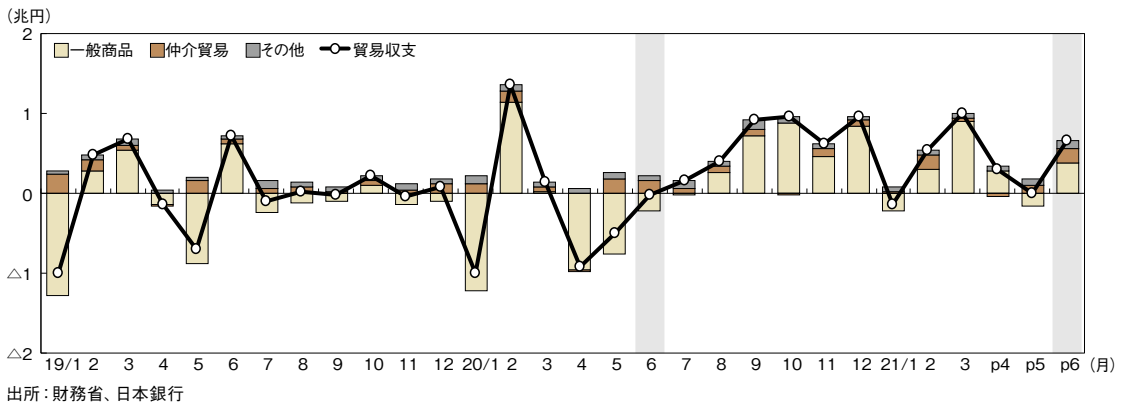
2020年の世界経済は新型コロナウイルス危機等により歴史的な落ち込みとなったが、2021年は欧米先進国や中国等の景気回復により、まだら模様ながら回復している。日本経済も改

善基調となっており、図表1の通り前年同期比で上半期の貿易収支は大きく回復している。上半期の貿易収支は9,800億円の黒字となっており、コロナ禍の影響が大きかった前年同期の2.3兆円の赤字から大きく改善した。

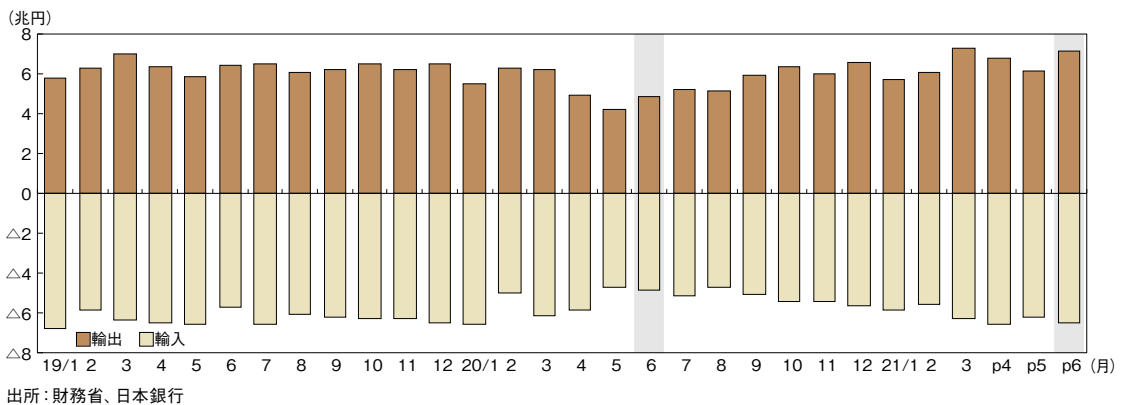
同様に、図表2の通り前年同期比で上半期の輸出入も大きく回復している。

2021年上半期の輸出動向を見ると、前期のコロナ禍の反動等により、輸出総額は前年同期比23.2%増の約40兆円で、大幅回復となっている。図表3の通り、主要商品別では、半導体等製造装置・原動機等の一般機械が前年同期比24.1%増の7.9兆円、半導体等電子部品等の電気機器が同19.6%増の7.1兆円、自動車・自動車の部分品等の輸送用機器が同26.1%増の8.3兆円、等となっている。コロナ禍よりいち早く立ち直った中国向けや、米国、EU等への輸出拡大が回復をけん引している。

図表1 貿易収支の推移



図表2 輸出入の推移



図表3 2021年上半期の輸出の商品別構成

品名	価額(百万円)	構成比(%)	伸率(%)
総額	39,858,515	100.0	23.2
1 食料品	455,716	1.1	30.1
2 原料品	740,004	1.9	53.6
3 鉱物性燃料	365,871	0.9	-22.2
4 化学製品	5,096,203	12.8	24.1
5 原料別製品	4,567,542	11.5	21.8
6 一般機械	7,881,284	19.8	24.1
7 電気機器	7,087,390	17.8	19.6
8 輸送用機器	8,275,789	20.8	26.1
9 その他	5,388,716	13.5	23.5

出所：財務省

図表4 2021年上半期の輸入の商品別構成

品名	価額(百万円)	構成比(%)	伸率(%)
総額	38,876,797	100.0	12.2
1 食料品	3,446,692	8.9	1.9
2 原料品	3,060,407	7.9	33.2
3 鉱物性燃料	6,913,758	17.8	8.0
4 化学製品	4,505,380	11.6	9.1
5 原料別製品	3,839,639	9.9	11.9
6 一般機械	3,789,752	9.7	7.5
7 電気機器	6,488,172	16.7	19.8
8 輸送用機器	1,613,852	4.2	27.1
9 その他	5,219,144	13.4	9.2

出所：財務省

輸入動向も同様に、前期のコロナ禍の反動等により、輸入総額は前年同期比12.2%増の約39兆円で、大きく改善している。図表4の通り、主要商品別では、原油及び粗油・LNG等の鉱物性燃料が前年同期比8.0%増の6.9兆円、医薬品等の化学製品が同9.1%増の4.5兆円、通信機・半導体等電子部品の電気機器が同19.8%増の6.5兆円、等となっている。

米国、EU、中国等の回復に伴い、世界経済はまだ模様ながら大きく改善しつつある。日本経済も2020年の厳しいコロナ禍の影響から立ち直りつつあり、同様に日本の貿易は中国、米国、EU向け等を中心に大きく回復している。

直近の貿易動向の見通し

7月に発表されたIMFの「世界経済見通し」によると、2021年の世界の経済成長率は6.0%と、欧米先進国や中国等を中心に大きな回復を予想している。日本の貿易動向も同様に、堅調な景気回復が想定される米国、EU等の欧米先進国や中国向けを中心に、堅調に推移していこう。

今後の国際経済と貿易動向の注目点

今後の世界経済・貿易に関する大きな注目点として、以下の3点を取り上げる。①グローバルサプライチェーンの最適化、②世界的なデジタル経済の進展、③気候変動対応の加速

である。

①グローバルサプライチェーンの最適化

現在でもグローバル企業による生産拠点の分散や自国回帰等の動きが見られるが、今後も事業展開の最適化等が加速していこう。中国から東南アジア、インド等への生産シフトや、事業の自国回帰等により、モノ・サービスの流れが大きく変わり、世界経済や貿易動向へ大きな影響を及ぼす可能性がある。

②世界的なデジタル経済の進展

コロナ禍による巣ごもり需要の拡大やテレワークの普及等により、人々の生活様式や企業活動が大きく変容している。モノ・サービスのデジタル化が飛躍的に加速し、世界経済や貿易の構造が大きく変化する可能性がある。

③気候変動対応の加速

カーボンニュートラルを中心とする脱化石燃料の世界的な進展は、将来的な鉱物性燃料ビジネスの構造変化や再生可能エネルギービジネスの加速等をもたらすだろう。また、電気自動車（EV）普及や水素社会の到来等も関連ビジネスを後押しすると想定される。その結果、世界経済や貿易動向に大きな変革をもたらす可能性がある。

貿易動向調査委員会としては、上記の論点を中心に最新情勢の把握と長期的な注目点に着目しつつ、活発な議論を続け、毎年恒例の「わが国貿易収支、経常収支の見通し」を作成したいと考えている。